

平成21年度 朝来市水道事業経営状況

I 経営状況

水道事業は、地方公営企業のため、独立採算制(財貨又はサービスを供給し、それに要する経費を料金という形で回収し、その料金によって新たな財貨やサービスを再生産し、企業活動を継続していく)で運営され、受益者負担が原則となっています。そのため水道事業は、利用者からいただいた水道料金により管理・運営を行っています。

近年、市の水道事業を取り巻く環境も、少子高齢化の進展、節水型機器類の普及、景気の低迷などにより水需要が伸び悩んでおり、料金収入の増加が期待できない状況となっています。一方で、合併による施設の一体化、老朽化、耐震化、危機管理等への取り組みなど課題も多くあり、経営は大変厳しい状況になりつつあります。

このような中、平成21年度決算は業務改善などによる経費節減に努め、11,247千円の純利益を計上することができました。

しかし、平成21年度も供給単価から給水原価を差引く損益は、給水原価が供給単価を4円94銭上回る結果となり、依然として損失状況が続く厳しい経営状況にあります。

「安全でおいしい水を安定的に供給する」ことは水道事業の使命であり、今後も、水源の確保、老朽化した施設の更新、緊急時用連絡管の整備を計画的に進めていきます。

II 業務量

項目		平成21年度	平成20年度	比較		
				増減	比率	
1	総人口(外国人含む)	34,179人	34,610人	△431人	98.8%	
2	給水区域内人口(注)1	33,432人	33,831人	△399人	98.8%	
3	給水人口	33,113人	33,507人	△394人	98.8%	
4	給水戸数	13,205戸	13,157戸	48戸	100.4%	
5	普及率(給水人口/給水区域内人口)	99.0%	99.0%	0%	100.0%	
6	配水量	年間	5,041,539m ³	5,181,954m ³	△140,415m ³	97.3%
		1ヶ月平均	420,128m ³	431,830m ³	△11,702m ³	97.3%
		1日平均	13,812m ³	14,197m ³	△385m ³	97.3%
7	有収水量(注)2	年間	4,236,966m ³	4,354,475m ³	△117,509m ³	97.3%
		1ヶ月平均	353,081m ³	362,873m ³	△9,792m ³	97.3%
		1日平均	11,608m ³	11,930m ³	△322m ³	97.3%
		1人1日平均	351ℓ	356ℓ	△5ℓ	98.6%
8	有収率(有収水量/配水量)	84.0%	84.0%	0%	100.0%	
9	供給単価(注)3	155.25円	156.21円	△0.96円	99.4%	
10	給水原価(注)4	160.19円	157.89円	2.30円	101.5%	
11	供給単価-給水原価	△4.94円	△1.68円	△3.26円	294.0%	

※人口・戸数については、平成22年3月末現在の数値。

(注)1 給水区域内人口：総人口から簡易水道・専用水道・特設水道区域内人口を除いた人口。

(注)2 有収水量：配水量のうち、料金収入として有益となる水量を表す。

(注)3 供給単価：有収水量1m³当り、どれだけの収益を得ているのかを表す。

(注)4 給水原価：有収水量1m³当り、どれだけの費用がかかっているのかを表す。